

第64回「ハートミーティング」意見交換の内容について

「京（みやこ）の水道管おそうじプロジェクト」のメンバー

★市長からのコメント

- 京都市の水道は、安全安心で、安価で、環境への負荷も少ない世界最高水準である。水道水の美味しさを維持し、皆が水道水を飲むことで、地球環境や家計に良いことを更に知っていただきたい。
- プロジェクト発足のきっかけとなった、4年前の「山ノ内浄水場廃止に伴う給水区域再編事業」は、全国でも例を見ない大規模なものであったが、事前に周知等をしっかりと行ったことで大きなトラブルがなく、他都市でも非常に評価されている。これらの経験がプロジェクトの事前広報等においても、しっかり活かされている。
- プロジェクトでは、水をきれいにするのは大前提だが、組織を横断し、また若い世代の職員も参加し、一人一人が当事者意識を持って、技術やノウハウの継承に取り組んでいる。女性の参画も、良いモデルだと思う。
- 「感謝」の言葉「ありがとう」の反対は「当たり前」。「有難い」は「あり得ない」ということである。琵琶湖疏水があり、先人が努力し、おいしい水が享受できる環境は「当たり前」ではなく、「有難い」。「有難い」ことに感謝し、今後も汗を流してほしい。
- 目の前の業務に追われる中、未来を展望し、過去の遺産に磨きをかけ、それぞれの仕事を頑張ると同時に、技術の継承や意識の向上、市民サービスの更なる向上に努めてくれており大変感謝する。

★参加メンバーからの主な声

- 本プロジェクトは、水道の維持管理をするうえで大変重要であり、また技術継承の観点からも継続することが大切であると、市長にお伝えでき良かったです。また市長から、プロジェクト以外のことも、いろいろお話をしていただき、勉強になり有意義な時間でした。
- 「感謝」の反対の言葉が「当たり前」であるとの話が、一番印象的で深く考えさせられ、共感することができました。
- 京都市水道局の造る水が世界最高水準の水だと胸をはられておっしゃられたのが印象的でした。市長が誇れる最高水準の水道水を、これからも維持し守り続けたいと思います。
- 今回の意見交換を、今後のプロジェクトに活かせるよう、また本プロジェクトが、京都市の水道や市民に直結しているという自覚を更に持ち、進めていきたいと思います。
- お褒めの言葉もいただき、嬉しく思いました。もっと多くお話しをしたかったくらいで一時間半が短く感じました。
- 市長が話される何気ない小さな一言も、ハートミーティングのような機会がなければ決してうかがい知ることはなかったと思います。組織のトップと気さくに話せる機会は、民間企業でもなかなかあることではなく、若い職員にとってもベテランの職員にとっても、組織のトップの思いや考え、人柄を肌で感じる良い経験と刺激になりました。